

会員のつながりに
互いが支えられた

岩手 宮城 仙台 福島

東日本大震災と
老人クラブ活動に関する
検討会から



大震災後の老人クラブ活動と
これからについてお伺いするため、
平成25年1月29日(火)、
東京・尚友会館会議室に、
大規模被災地の各県・市から4名の方々に
お集まりいただきました。
当日は11時から15時まで約4時間、
熱心なお話をお聞かせいただきました。
ここにその一端をご紹介します。

齊藤 今日とは遠方からありがとうございます。私も出身は秋田で、東北の皆さんのご苦勞は人ごとでない気持ちです。3.11から間もなく2年になります。阪神・淡路大震災から18年、さらに関東大震災からは90周年です。仮に100歳まで生きるとすれば、生涯に未曾有の災害を3回ぐらい体験することがあるのだという感慨を持ちます。

一方、災害が風化することはやむを得ない現実ですが、そこにいた証し、幾多の犠牲があったことを何らかの形で残していくことも、老人クラブの役割の一つではないかと感じています。

震災からこれまでのことを伺いましたが、改めて、被災後自らも痛手を受けたにもかかわらず、老人クラブ活動を立ち上げようとした、そのきっかけと具体的な活動を教えてくださいませんか。

会員の絆を大事に

佐々木 私は昭和7年生まれで津波に3回遭いました。昭和8年の津波はおやじの背中で、そして

チリ津波と今回の震災です。昭和22年には大火にも遭い、その都度何とか家を建て、私の人生は家を建てることに明け暮れた感じです。チリ津波後、津波の心配のない所へと現住所へ転居し、難を逃れることができました。

3月11日の翌朝、惨状を見て、これはただ事ではない、何とかしなければと思いました。それで会員の家や避難所を訪ね歩いた。しかし飲み水の確保・運搬、加えて電気もまだ通らずに生活も手いっぱいでした。私は股関節の具合がわるく1週間ぐらいで歩けなくなってしまった。女房も転んだりして、自分たちの体が傷んでくる。そういうなかで、こんな時こそ力を合わせなければならないと思って安否確認を続けたのです。被災者のことが心配で訪問を続け、人は人を大事にしなければいけないという気持ちになりました。

菅原 89歳のおばあちゃんと津波に追われながら逃げて、少しの高台で命拾いしました。その晩、海は火の海。会員は2人亡くなりました。年寄りはどうにも逃げられなかったでしょう。

喜楽会の会員は1人残らず家がなくなっています。みんなバラバラになってしまい、老人クラブどころではない。私は東京の息子のところに6~7か月いて、そのままいたらと言われたけど、友達も多いし、やはり故郷がいいねと。ようやく仮設に当たって帰ると、会長から体調がよくないからクラブを休止したいという話が出て、でもなくしてしまったら、皆さん寂しいじゃないのと、私がつなぎでやることにしたのです。会員の所在を探したいと思ってもすぐにはできなくて、友から友へとつなげていき情報を得ました。いまだにわからない方もいます。まとめるまでが本当に大変でした。東京とか岩手とか他県にも行っている。何かやろうとしても遠いから行けないと言われて、人数を集めるのは大変です。

鈴木 大熊町の会員はバラバラになっているけど何もしないわけにいかない。24年1月、単位クラブ会長兼若手委員として初めて町老連に関わりました。元気袋を発送して以来、町老連から会員への情報提供が何もないことに気づき、広報部を



参加メンバーの紹介

震災からこれまでの老人クラブ活動



佐々木 鋼文氏

岩手県山田町
飯岡老人クラブ会長

このような時こそ支え合う

津波の翌朝から会員の安否確認を始めた。町内8か所の避難所を訪ね、消息を聞き歩く。このような時こそ老人クラブで支え合わなければならない。5月に役員会、「寿会だより」を復活して町外避難者へは郵送した。6月の総会では、結成以来32年間の活動である1円募金継承を決定、「復興のために高齢者も役立つことがある。仲間と支え合い励まし合って生きていこう」。終了後は久しぶりに食事、歌、体操・・・しかし何か違う。7月例会では七夕飾りを作り保育園に飾る。会員の笑い声を震災後初めて聞く。日が経つにつれて笑いがいっぱいのクラブに戻った。

会員でなくても誘い元気を取り戻すことがクラブの役割と考えて声をかけ、お楽しみ会等に参加され、会員も増えた。

元気袋を持参して友愛訪問

12月に県老連から友愛訪問の説明があり、積極的に取り組むことにした。9か所の仮設212世帯中、訪問する高齢者110世帯の名簿を作成。持参する全国からの「元気袋」は拙宅に保管して、飯岡老人クラブ会員が袋詰めをした。同じ人の訪問により打ち解けて「散り散りで寂しい。訪ねてくれるのは老人クラブだけ」と入会した方もいる。健康度が落ちているため、健康活動、友愛活動に力をいれたい。

つくってほしい、私が通信員、若手委員としてみんなとのつながりもできるだろうからと提案し、了解されました。これがきっかけの一つです。

会津若松だけで9か所の仮設住宅があります。そこを回って皆とお茶を飲んでいるうちに、“皆さんどこにいるんですか”“元気なんですか”という話が結構出ました。そこで、ビデオを撮ってみるなにお互いの姿を見てもらったらいいのではないかと思ったのです。ビデオの好きな若手委員に相談して、仮設を回って3～4か月で撮った5時間ぐらいのものをまとめて、役員に見せたら非常に反応がいい。会津若松市の青年部の人に30分に短縮してもらい、各仮設で見ってもらったら“誰々さん、ここにいたんだ”とかお互いの状況がよくわかるようになって大喜びでした。

齊藤 ビデオをつくって皆さんにご覧いただいて、想像以上の喜びを。

鈴木 そうなんです。私のクラブの前会長もすぐ帰れるという気持ちで移動したのが2年になってしまい、“みんなに挨拶したい、元気な状況を確認かめたい”と、二人で北は名取市から南は白河市まで分散している会員宅を訪問して、会津若松で生活している会員たちの様子を知らせながら元気な姿をビデオ撮影し、絆を深めてまいりました。

第2巻は会津若松の人たちとの交流が中心で、編集はほぼ終わっています。今は第3巻を企画していますが、今日皆さんの被災の話聞き、大熊



仮設住宅での友愛訪問（岩手県）

会員のつながりに互いが支えられた
東日本大震災と老人クラブ活動に関する
検討会から



盛況だった健康講座（仙台市）

でも津波で被災された会員の方もおりますので、お話を聞いて記録を収録することもクラブの仕事かと思いメモしたところです。

山形 私は初めから、老人クラブをつぶしたらだめだ、立ち上がれなくなるという考えでした。それで副会長と話をして“とりあえず集まろう”とアンケートをとったら、78名の人が月1回何かして欲しいという回答でしたので、自信を持ちました。地域包括支援センターに協力してもらい、お茶を飲みながら健康に関する話を6月20日に開催して、2回、3回と健康講座を続けました。

元気袋でつながれた

山形 そのうちに全老連から救援拠金がきて、年度当初でお金がなかったのに、おかげで芋煮会とか、みんなで楽しもうと「がんばっぺ六郷」ふれ愛演芸まつりを開催できた。クラブが活気づくようにクラブごとの発表の場として、おそろいの法被や「がんばっぺ六郷」という看板を作りました。救援拠金のおかげで、1年目にしては行事が多くできました。こういう集まりをするのも、元気袋や救援拠金がなかったら恐らく立ち上がれなかったと思います。

鈴木 バラバラになった会員の所在を確認できたのは、何とんでも元気袋のおかげです。元気袋の発送までには3か月程かかりましたが、全会

参加メンバーの紹介

震災からこれまでの老人クラブ活動



菅原 京子氏

宮城県
気仙沼市老人クラブ連合会
女性部長
喜楽会会長

会員全員が被災

喜楽会の会員は全員が家を失くし、仮設住宅や借上住宅、市外、県外へとばらばらになった。会長は一時休会を考えたが、私が東京から9月に戻って会員数人で集まった時に、「続けた方がいい。何もなくて寂しいから」と言われたことをきっかけに、「とにかく集まりましょう」と会員の行方をあたった。

最初に参加を呼びかけたのは10月、地区の復興まつり。会員に元気袋を渡した。12月にはお茶飲み会を開催。「これからも集まりたい」という言葉に背を押され、会場確保に苦労しながら、3か月に1回は集まりをもっている。友愛訪問、グラウンド・ゴルフも再開した。比較的若い会員が新たに9名入会して、会員は33名になった。

市老連女性部でつるし雛づくり

女性部では震災後につるし雛の手作り講習会を開催、会員間で教え合うことにより地区から単位クラブまでつながりができた。昨年10月には、仙台で開催したねりんピック・地域文化伝承館につるし雛を「復興だるま」という名前で出展し、女性総動員で作ったつるし雛千個以上を出展ブースにつるし、大勢の観客に見ていただいた。

「長生きしてよかったねと、年を重ねることに誇りを持とう」と声かけをしている。

Sugawara Keiko



参加メンバーの紹介

震災からこれまでの老人クラブ活動



山形 邦夫氏

仙台市若林区
六郷地区老人クラブ連合会会長

クラブの名を残そう

六郷地区は、津波により8割以上の土地が波にさらわれ、8クラブの内6クラブが大きな被害に遭った。

4月、震災後初めて区老連会長を含めて役員数名と話し合い、まず各クラブ会長を探そうと、自ら被災した副会長と二人で避難所回り。同時にクラブ存続のアンケートをとったところ「検討中」との回答が相次いだ。「クラブの名を残そう。クラブを失くしたら立ち上がれない」と今度は説得に歩き、全クラブ継続することになった。被災6クラブは各々70名前後だった会員が3～23名に。副会長は「家は流されても心は流されない。心の支えは絆だった」と振り返る。

「集い」を大事に

最初の集いは、6月に地域包括支援センターの協力を得た健康講座。78名参加して「久しぶりに運動できた」「友だちと会えた」と盛況で、その後も継続した。各クラブの旅行や芋煮会などの活動にもはずみがつき、ストレス発散と会員のコミュニケーションに努めた。

また仮設住宅では、井戸端会議のときに座れるベンチづくりをしたり、花づくりの出来るプランターを設置した。

地区には昔の津波の記録を残す「浪分神社」があるが、その教訓は生かされなかった。私たちも今回の体験と教訓を語り継いでいきたい。

会員のつながりに互いが支えられた
東日本大震災と老人クラブ活動に関する
検討会から

員に届けることができました。これでバラバラになっていた会員の所在がまとまり、それからスタートした感じです。元気袋はつながりを取り戻してくれました。

山形 元気袋と抛金、あれがなかったらダメだったかもしれません。

菅原 私は今年の新年会でも元気袋を渡しました。震災後初めて連絡がついて会えた方がいたのです。元気袋で本当に助かりました。モノそのものではなく、その気持ちです。あら、こんなにまでしていただいたのってみんな喜んで、ありがたかったです。

佐々木 全国の老人クラブの方々から救援抛金をいただき、元気袋というお便りもあるし、頑張っていくべしって。元気袋を届けたら本当に喜んでくれました。はじめは、老人クラブに入っていないのにもらっているのって聞かれました。お便り、手紙もいろいろ入っているのを見ました。1月に訪問した方は、元気袋に入っていた福岡の方のお便りにお礼の返信をしたら、また返事が届いて、これから長い間、文通していきましょって。皆さんの救援はありがたかったです。

集まりで元気になる

齊藤 元気袋が会員の安否確認や再会に役立ち、そこから集まることで元気を取り戻していった、それは皆さんに共通しています。

山形 集まりが大事。そして集まったからには楽しみがなければダメだと思っています。復興演芸祭りでは、体を動かすために輪投げを加えました。区老連の芸能祭では個人でなく団体で出るように勤めてコーラスが出演しました。

各クラブの会長も、自分たちのことは自分たちでやらなければダメだという気風が強くなっています。その面で、昨年仙台で地域文化伝承館を開催したことは大きな意味があった。老人クラブのいいところが出たと思っています。

菅原 気仙沼市では去年から運動会を再開しました。優勝カップは流されたから、新しくしてね。

年忘れ大会も時間を短縮して行いました。皆さん、頑張ろうという気持ちです。

佐々木 私のクラブでは“唇に歌を”と一緒に歌うことを大切にしています。歌うと自然に心が一つになる。気持ちが立ち直ってきている感じがしています。また健康体操といって、民謡に合わせて立ってする人も座ってする人も全員で踊る。年4回はお楽しみ会で輪投げ等のゲームをしながらチャンピオン決定戦もやっています。トロフィーをだすなど工夫して。ジャンケンも体が熱くなって血行がよくなり、体力にもつながる。生活不活発発病予防にもなる。震災後、転ぶ人が多い。足腰が弱くなり、老化が進んでいると感じています。元気を出すためには何でもやるという気持ちです。

齊藤 生活不活発発病の名付け親は、国立長寿医療研究センターの大川弥生先生です。被災地の調査で、震災後に健康度が年齢以上に落ちていた。原因は、外に出ることや人と話す機会がない、そういう生活の不活発にあるという。先生が全老連に来て、被災地で保健師などが活動しているけど、日常的なものにつながらない。老人クラブが外に出る機会、おしゃべりする機会を増やして欲しいと依頼にきました。このことからみなさんの活動は大事です。輪投げやつるし雑など手法は様々でしょうが、そういう活動メニューが多くあり、継続することが大切です。さらに呼びかけに応えない人たちをどうするか。阪神・淡路大震災の例



震災後、2回目の集まり(宮城県)

参加メンバーの紹介

震災からこれまでの老人クラブ活動



鈴木 照重氏

福島県
大熊町老人クラブ連合会
若手委員長

元気袋をきっかけに会員所在確認

大熊町老連の会員900名は、会津若松市に約35%、いわき市に24%、県内に18%、県外に23%とバラバラになっている。老人クラブ活動の実施はなかなか難しい状況にある。そのなかで全国からいただいた元気袋を届けるために、会員居住地の確認作業を始めた。時間はかかったが成し遂げ、各クラブ会長のメッセージを入れて送付した元気袋には、翌日からお礼の電話が相次ぎ、近況報告に時間を忘れて話し込んだという。

そこから、広報誌の発行、グラウンド・ゴルフ大会、ウォーキングや作品展などの活動につながった。

町老連では、従来のクラブのつながりを大切にしながら、仮設住宅におけるクラブの設立、併せて避難先地元老人クラブとの交流を図ることを推進している。

つながりを深めるDVD製作

震災前に設立していた若手委員会では、現在の会員の姿と老人クラブ活動をDVDに撮って、離れて暮らす会員に届けることで会員同士のつながりを深めたいと、記録の製作を行うことにした。第1巻を見た会員からは、互いの消息がわかり、元気な姿を見ることができて良かったととても喜ばれた。全4巻を目標に、若手委員が通信員となり活動している。



では、復興住宅などに移った後に、孤立死などの問題が増えた。その時にまた老人クラブが立ち上がるように、今から応援団を増やして、つながりの大切さを伝える必要があると思います。

これからに向けて

齊藤 老人クラブもまだ会員が定住できず、移動も予想されて先行き不明ですが、今後に向けてはどうでしょうか。また、今日は皆さんのようリーダーの力が大きいと感じました。さらに次のリーダーを育てていただければと思います。

佐々木 会長の跡継ぎは大きな問題です。山田でも会長のなり手がいないために解散したクラブがあります。町の人口が減り、いつ復興するかわからない中でのクラブ活動ですから、気を引き締めていかなければ難しい状態になる。いかに工夫するかが大事だと思っています。

山形 将来50%の住民が戻るだろうと町内会長が発言したけど、その時に老人クラブ組織はどうしたらいいか。各クラブ会長に将来をどのように考えているか意見を聞いたところ、会員は今でも連絡すれば集まるから、この会を失くしたくないと言う。同窓会ようになりますよね。人は増えない、会員の居住地は移動していく。仮設を出てからどれだけの動きがあるか。町内会や地域包括支援センターなど他機関と連携をとって、その時点で見直そうと考えています。

鈴木 従来のクラブのつながりを維持しながら、会津若松市、いわき市の仮設住宅に仮の老人クラブをつくることを検討、さらに会津若松市やいわき市のクラブと積極的に交流していこうと呼びかけています。いずれ移動した時にはその時点でまた再編すればいいと話合ったところでした。

齊藤 例えば県外に住む会員が年何回か参加されるとか、いろいろな形がある。帰れば仲間と会えるという希望があるうちは、集まるのが必然になるのでしょうか。

菅原 10年後と言われても、考えても及ばぬことですから。いまの仮設は13戸のうち5人が1人暮らしで、心がけて声かけしています。将来、復興住宅などに移った後にどうなるかが心配です。老人クラブもあまり会員が動かなければいいけど。

鈴木 老人クラブへの参加ももちろんですが、普段の生活も大切ですよ。

町老連では当面、転倒防止体操などの健康インストラクターの育成や、友愛訪問、会員への暑中見舞葉書などを活動していきたいと考えています。

山形 私は、会員は何をしてもらいたいかを大切にしています。それに沿う、楽しみに集まれるような場をつくっていきたくと考えています。

余談ですが、私は股旅舞踊をしていて、この前介護施設へ行きました。ベッドの横に股旅姿で立っただけでしたけど。そうしたら笑ったことのない人が、我々を見て笑った。神経を刺激して良いと看護師さんに言われて、なるほどと思いました。

菅原 笑わせるというのは大変なことです。

齊藤 今日はこういう時こそその老人クラブだという話をお聞かせいただきました。復興の槌音が高くなることを願っています。また、福島の方々が1日も早く故郷に戻ることができるように、復興がすすむことがみんなの願いです。ありがとうございました。



会員をつなぐDVD製作（福島県）

会員のつながりに互いが支えられた
東日本大震災と老人クラブ活動に関する
検討会から

全老連の活動概要

被災地と老人クラブを結ぶ役割を果たすために、全老連では次のような被災地の情報把握と伝達に努めた。

● 震災情報、月刊「全老連」をとおした広報活動

・「震災関連情報」の発行

3月14日の第1報から25年3月現在第33報まで発行。被災地の現状や支援の呼びかけ、推進状況について、都道府県・指定都市老連へメール送信した。

・月刊「全老連」における広報活動

23年5月号に救援拠金募集を伝えたのを皮切りに、次号からは震災情報コーナーを設けて、老人クラブの状況を中心に情報提供した（23年6月号～25年3月号）。同時に、避難所において体調を整えるために「カラダがほぐれ、元気になる体操」を武井正子先生に提供いただいて掲載した（23年6～11月号、計6回）。

また、被災地における老人クラブの現状について、取材（24年2月号）、現地リーダーによる懇談（25年4・5月号予定）により伝えた。

● 現地訪問、関係会議の開催、会議やセミナーなどにおける取り組み

< 現地訪問 >

23年

3月 —— 岩手県老連訪問（26日、齊藤事務局長）

5月 —— 大規模被災地訪問（全老連とサポート幹事県老連）

・岩手県宮古市、山田町、大槌町、釜石市（全老連：齊藤事務局長、岡本参事、秋田県老連：戸嶋事務局長、田口推進員）

・福島県新地町、相馬市（全老連：齊藤事務局長、河野参事、東京都老連：秋山事務局長、新潟県老連：高橋事務局長）

・宮城県七ヶ浜町、塩釜市・仙台市若林区（全老連：齊藤事務局長、谷野参事、山形県老連：高橋事務局長、横戸職員）

6月 —— 茨城県潮来市・鹿嶋市各老連へ埼玉県桶川市老連から応援旗贈呈（全老連：正立参事同行）

7月 —— 全老連政策委員会・女性委員会代表による福島県内被災地（飯館村、相馬市、南相馬市）訪問



全老連：永井副会長（東京都）、増田理事（東京都）、久木理事（愛知県）、
齊藤事務局長、河野参事

12月 —— 月刊「全老連」取材のための被災地訪問

- ・福島県福島市、相馬市（全老連 河野参事）
- ・宮城県気仙沼市、仙台市若林区（全老連 谷野参事）
- ・岩手県大槌町（全老連 岡本参事）

24年10月 —— 全国健康福祉祭宮城・仙台大会「地域文化伝承館」出席の折に、岩手県釜石市老連を訪問（全老連 斎藤会長）

<大規模被災県市打合せ会議>

23年5月27日、大規模被災県市老連（岩手県、宮城県、仙台市、福島県。茨城県は欠席）の会長、事務局長による会議を開催した。

内容 ①救援拠金の配分と用途 ②今後の支援等対応について

<「被災県別サポート班体制」幹事会議>

4班編成による班ごとの幹事県老連（秋田県、山形県、新潟県、埼玉県、東京都）による会議を2回開催した。開催日と主な協議事項は次のとおり。

- 23年4月14日 被災地情報の収集、被災地支援、サポートニーズの検討など
- 24年2月8日 救援拠金、支援活動などの課題整理

<会議・セミナーなどでの取り組み>

23年

5月 —— ・全老連女性委員会総会

被災地報告 岩手県老連女性委員長 山内霜子（宮古市）
仙台市老連女性委員長 上野一子



・全老連理事会・評議員会

被災地報告 仙台市老連会長 橋本典子
宮城県老連会長 坂本せん

6月 —— ・都道府県・指定都市老人クラブリーダー中央セミナー

テーマ「老人クラブの絆～東日本大震災からの復興支援」
被災地報告 岩手県釜石市老連事務局長 横山幸雄

宮城県大河原町老連会長 大沼浩雄
仙台市若林区老連会長 佐藤清一
福島県老連事務局次長 齋藤千恵子

阪神・淡路大震災を振り返って 兵庫県芦屋市老連会長 大嶋三郎
・都道府県・指定都市老連事務局長会議



宮城県・仙台市開催と岩手県開催に分かれて、グループごとに次の老連を訪問、現地リーダーの説明、案内により視察した。

- 宮城県 ①石巻市 ②多賀城市・七ヶ浜町 ③岩沼市・亘理町
- 仙台市 ①若林区・青葉区 ②宮城野区
- 岩手県 ①大船渡市・陸前高田市 ②釜石市・大槌町 ③宮古市・田老町

終了後、レポートを提出いただき、会長会議において配布した。

7月 —— ・都道府県・指定都市老連活動推進担当者研究セミナー

茨城県北茨木市にて開催し、グループごとに市内被災地を現地リーダーの説明、案内により視察した。

11月 —— ・全国老人クラブ大会・活動交流部会「高齢者の安心・安全を守る活動」

被災老連発表 仙台市宮城野区高砂地区老連会長 田邊直樹
支援活動発表 京都府老連副会長・女性委員長 平野純子

・女性リーダーセミナー

テーマ「老人クラブの絆」

被災地報告 岩手県宮古市老連副会長 山内霜子
同 大船渡市老連女性副部長 木村久子
宮城県老連会長・女性委員長 坂本せん
仙台市老連副会長・女性委員長 上野一子
同 宮城野区老連女性部長 菊池美智子
同 若林区老連女性部長 高橋咲子
福島県老連副会長・女性委員長 渡辺京子

小グループ協議「今、老人クラブにできること」

東北からのPR（宮城県東京事務所、福島県観光物産交流協会）

12月 —— ・都道府県・指定都市老連会長会議

被災老連報告（岩手県、宮城県、仙台市、福島県）

講演「大震災、仮設住宅の高齢者は今」 前岩手大学教授 長山 洋

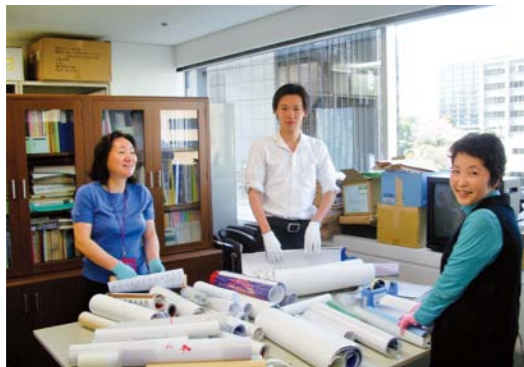
- 24年
- 1月 —— ・地域支え合い活動推進セミナー
被災地活動報告 福島県飯館村老連副会長 菅野益夫
 - 6月 —— ・都道府県・指定都市老人クラブリーダー中央セミナー
被災地活動報告 福島県富岡町老連副会長 渡辺喜助
 - 11月 —— ・女性リーダーセミナー
被災地報告 仙台市青葉区折立地区老連会長 上野一子
福島県浪江町老連副会長・女性部長 大泉郁子
- 25年
- 1月 —— ・在宅福祉を支える友愛活動セミナー
被災地活動報告 宮城県七ヶ浜町老連会長 渡邊襲夫

救援拠金や元気袋を届ける活動以外に、全老連では次のような取り組みを行った。

●被災地にカレンダーを届けるプロジェクト

仮設住宅入居時を想定して、23年3月に関連団体や企業、都内美術館へ依頼して、カレンダー 22,556点を提供いただき、老人クラブや関連団体の協力を得て、被災者へ届けた。特にシルバーサービス振興会からは、会員企業の協力により多くの提供をいただいた。

配布数 岩手県5,165点、宮城県10,612点、福島県6,779点



●被災地の活動事例集

「笑顔を取り戻そう～東日本大震災被災地の老人クラブ活動2012」の作成、配布

(みずほ教育福祉財団助成事業)

被災地老人クラブの活動状況と支援報告について、24年6月に作成し、研修会などで配布した。



●老人クラブ復興応援旗の贈呈

- ・岩手県、宮城県、仙台市、福島県内の被災47市区町村老連へ
「祈 老人クラブ復興」と老人クラブマーク、全老連・都道府県・指定都市老連名を配した復興応援旗を製作して、贈呈した。



- ・岩手県、宮城県、仙台市、福島県の各老連へ

上記の旗にさらに都道府県・指定都市老連からの寄せ書きを加えた復興応援旗を、24年10月に開催した全老連創立50周年記念全国老人クラブ大会の席上で贈呈した（24ページ参照）。



●被災高齢者向け「閉じこもり防止ダイアリー」の作成、配布

(みずほ教育福祉財団助成事業)

被災高齢者の閉じこもりが社会問題となっていることから、それを防止するために、毎日の外出や人との関わり等を記載するダイアリーを、25年3月に作成して配布した。

全老連活動日誌



平成23年

3月

- 11日 ・ 14時46分地震発生。東京都内の交通機関は全面運休。職員は徒歩での帰宅（1名は事務所泊）
- 12日～13日 ・ マスコミ報道を通じて被災地の状況が次第に判明。携帯電話、固定電話は不通状態が続き、老人クラブ関係者との連絡不能
- 14日 ★「東日本巨大地震 関連情報（第1報）」を全国にメール送信
 - *連絡の取れた老連情報を提供
 - ・ 全老連副会長に連絡し、救援拠金の実施について了解を得る（被災地である仙台市老連橋本会長には連絡不能）
 - ・ 「東日本巨大地震に対する救援拠金の取り組み」文書発送
- 15日 ★「東日本巨大地震 関連情報（第2報）」送信
 - *被災地情報、救援拠金に関する問い合わせ回答など
 - ・ 被災老連との通信網が回復して、東北7県市、長野、新潟の事務局に連絡。事務局職員の無事を確認するが、宮城県老連職員2名は避難所から出勤、福島県老連職員の自宅は一部損壊
- 16日 ★「東日本巨大地震 関連情報（第3報）」送信
 - *岩手県老連「震災情報」第1報
 - *被災地旅行滞在中の秋田県老人クラブ会員救出報道
 - ・ 岩手県老連事務局が入居するセンターの避難者は200名との報告
- 17日 ・ 「被災地に“元気袋”（高齢者のまごころ）を届けよう！」発信
- ・ 仙台市老連橋本会長の無事を確認、自宅半壊のため転居
- 18日 ★「東日本巨大地震 関連情報（第4報）」送信
 - *被災地情報、元気袋の作成呼びかけ
- 19日 ・ 被災地への普通郵便取り扱い回復。避難所生活の事務局職員に支援物資の調達を職員有志に協力要請
- 22日 ・ 宅配便回復。宮城県老連、仙台市老連職員のライフライン復旧までの一助として携帯ガスコンロ・ガスボンベ等の支援物資送付
- ・ 岩手県老連を通じて、センターへの避難者への元気袋を送付（兵庫県老連から袋およびタオルほかの寄贈を受ける）
- 23日 ★「東日本巨大地震 関連情報（第5報）」送信
 - *被災地情報（青森県・岩手県・宮城県・仙台市）
 - *以降、阪神・淡路大震災老人クラブ支援の関連資料を情報提供
 - ・ 岐阜県老連から懐中電灯等、岩手県ルートの避難所向け物資届く
 - ・ 全老連で呼びかけた企業等から相次いで物資が届く
- 24日 ・ 福島県老連職員との連絡で、県老連の理事・評議員の無事を確認
- ・ 被災地にカレンダーを届けるプロジェクトとして、関連団体、企業、都

内美術館に寄贈を依頼

- 25日 ・ 全老連理事会、評議員会開催、東日本大震災の支援事業を追加提案
- ★「東日本巨大地震 関連情報（第6報）」送信
 - *被災地情報（仙台市・福島県）
- 26日 ・ 全老連齊藤事務局長が、秋田県経由で岩手県老連を訪問、正副会長会議で今後の対応を協議。秋田県老連田口職員同行
- 28日 ・ 保健福祉広報協会、シルバーサービス振興会の関連企業、都内美術館等からカレンダーの寄贈が始まる
- ★「東日本大震災 関連情報（第7報）」送信
 - *避難所に元気袋の提供（岩手県）
 - *福島県南相馬市からの避難した子どもたち支援（新潟県三条市）
- 31日 ・ 岩手県老連に元気袋（160個）送付

4月

- 1日 ★「東日本大震災 関連情報（第8報）」送信
 - *被災地情報（福島県老連の対応）
 - *支援情報（埼玉県：被災者受入れボランティア）
- 3日 ・ 東京都老連増田会長、秋山事務局長がカレンダー等を持参
- 5日 ・ シルバーサービス振興会から第2弾のカレンダー受け取り。整理・梱包作業にボランティア1名参加。以降、随時発送
- 7日 ・ 23時過ぎ、震度6の余震のため東北地方で大規模停電。交通機関がマヒ。予定していた宮城・仙台合同での復興打合せ会を急遽中止
- 11日 ★震災から1か月を経過—被災の全容いまだ不明
 - ・ シルバーサービス振興会から第3弾のカレンダー受け取り
 - ・ 岩手県老連に元気袋（105個）送付
- ★「東日本大震災 関連情報（第9報）」送信
 - *被災地情報（茨城県）
 - *支援情報（滋賀県：炊き出し、大阪市：街頭募金）
- 13日 ・ シルバーサービス振興会から第4弾のカレンダー受け取り。企業、団体、美術館等からの寄贈は約20,000点に達する。カレンダーのほか、筆記具、メモ用紙、手帳等多数の寄贈を受ける
- 14日 ・ 「被災県別サポート班体制」幹事県会議開催、被災地からの現況情報を提供し、中長期的な支援策について協議。
- 15日 ★「東日本大震災 関連情報（第10報）」送信
 - *「被災県別サポート班体制」幹事県会議開催情報
 - *「被災者にカレンダーを届けるプロジェクト」に協力要請
- 20日 ★「東日本大震災 関連情報（第11報）」送信
 - *宮城県・仙台市・福島県・茨城県老連「被災1か月後の状況」
 - *支援情報（兵庫県：元気袋、女性警察官の手で被災地に）
- 22日 ★「東日本大震災 関連情報（第12報）」送信
 - *岩手県・長野県・静岡県老連「被災1か月後の状況」

5月

- 28日
 - *福島県相馬市川房老人クラブ「避難者をつなぐ川房通信」
 - ★「東日本大震災 関連情報(第13報)」送信
 - *青森県・新潟県老連「被災1か月後の状況」
 - *支援情報(埼玉県:炊き出し)

- 6～7日
 - ・岩手県被災地訪問(全老連:齊藤事務局長・岡本参事)
 - *宮古市・山田町・大槌町・釜石市
 - *サポート幹事県:秋田県老連(戸嶋局長・田口推進員)同行
- 11日
 - ★「東日本大震災 関連情報(第14報)」送信
 - *千葉県老連「被災1か月後の状況」報告
 - *被災地(岩手県)訪問報告
 - *支援活動情報(新潟県村上市老連、京都府老連)
- 16日
 - ・福島県現地打合せ会(全老連:齊藤事務局長・河野参事)
 - *新地町・相馬市訪問
 - *新潟県老連(高橋事務局長)・東京都老連(秋山事務局長)同行
- 18日
 - ・宮城県、仙台市現地打合せ会(全老連:齊藤事務局長・谷野参事)
 - *仙台市・七ヶ浜町・塩釜市訪問
 - *山形県老連(高橋事務局長・横戸職員)同行
- 20日
 - ・全老連女性委員会総会開催
 - *被災地報告(岩手県、仙台市)
- 26日
 - ★「東日本大震災 関連情報(第15報)」送信
 - *被災地(福島県・宮城県・仙台市)訪問報告
 - *支援活動情報(大分県大分市:街頭募金ほか)
- 27日
 - ・全老連理事会・評議員会開催
 - *被災地報告(宮城県、仙台市)
 - *救援拠金の対象県および配分割合・用途等について決定・承認
 - ・大規模被災県市打合せ会議開催
 - *救援拠金の配分、用途、今後の支援等の対応を協議
 - *岩手県、宮城県、仙台市、福島県の会長・事務局長出席(茨城県は欠席)
 - ・救援拠金配分対象県に受領意思の確認文書を発送
- 31日
 - ・老人クラブリーダー中央セミナー開催
 - *テーマ:老人クラブの絆～東日本大震災からの復興支援
 - *被災地報告(岩手県・宮城県・仙台市・福島県)
 - *阪神・淡路大震災の被災体験に学ぶ(兵庫県芦屋市老連)

6月

- 6日
 - ・救援拠金配分対象県の受領意思確認取りまとめ
 - *対象県16老連に対し、辞退の申し出は5老連
- 7日
 - ・救援拠金配分対象県の最終確認後に配分率を再計算
 - *第1次配分として4億2,640万円を確定

- 9日
 - *同日、対象県に対して配分割合および配分金額を文書通知
 - ・救援拠金第1次配分4億2,640万円の送金手続き完了
 - ★「東日本大震災 関連情報(第16報)」送信
 - *元気袋情報(宮城県七ヶ浜町・京都府福知山市老連)
- 9～10日
 - ・関東ブロック老人クラブリーダー研修会にて、震災支援コーナーを設けて被災地情報、元気袋を展示(以降、北海道、東北、東海北陸、近畿、中国四国、九州の全7ブロックで実施)
- 11日
 - ・震災後3か月時の被災者数(警察庁まとめ)
 - *死者15,405人・行方不明者8,095人・避難者90,109人
- 21日
 - ・埼玉県桶川市老連が作成した「激励旗」を茨城県潮来市・鹿嶋市に贈呈(全老連:正立参事同行)
- 21～22日
 - ・都道府県・指定都市老連事務局長会議(宮城・仙台班)
 - *視察先 ①石巻市、②多賀城市・七ヶ浜町、③岩沼市・亶理町
 - ④仙台市(若林区・青葉区)、⑤仙台市(宮城野区)
- 22～23日
 - ・都道府県・指定都市老連事務局長会議(岩手班)
 - *視察先 ①大船渡市・陸前高田市、②釜石市・大槌町
 - ③宮古市・田老町

7月

- 4日
 - ★「東日本大震災 関連情報(第17報)」送信
- 11～12日
 - ・全老連政策委員会・女性委員会による福島県現地調査
 - *視察先 飯館村、相馬市、南相馬市
- 21～22日
 - ・都道府県・指定都市老連活動推進担当者研究セミナー、茨城県北茨城市で開催
- 22日
 - ・元気袋作成数等在庫状況調査の実施
- 27日
 - ・全老連理事会開催
 - *被災地報告(仙台市)
 - *救援拠金第2次配分後の取り扱いについて決定
- ★「東日本大震災 関連情報(第18報)」送信

8月

- 8日
 - ★「東日本大震災 関連情報(第19報)」送信
- 12日
 - ・元気袋在庫状況報告取りまとめ。被災老連事務局にストックヤードの確保と元気袋の受入れを要請
- 17日
 - ・元気袋受入れの手順等について、サポート幹事県老連と被災老連にて調整開始
- 26日
 - ★「東日本大震災 関連情報(第20報)」送信

9月

- 7日
 - ・カレンダープロジェクト協力機関等へ礼状送付
- 12日
 - ★「東日本大震災 関連情報(第21報)」送信
- 15日
 - ・救援拠金325,095,771円を第2次配分
- 20日
 - ・救援拠金最終取りまとめ第3次配分として、福島県老連に2,746,980円を配分

10月	28日	★「東日本大震災 関連情報(第22報)」送信
	11日	★「東日本大震災 関連情報(第23報)」送信
	12日	救援拠金協力に対する礼状送付
11月	1日～2日	・第40回全国老人クラブ大会(石川県開催) *活動交流部会「高齢者の安心・安全を守る活動」にて震災関連報告・発表(仙台市、京都府:元気袋支援)
	16日	★「東日本大震災 関連情報(第24報)」送信
12月	24日～25日	・女性リーダーセミナー開催 *テーマ:老人クラブの絆 *被災地報告(岩手県宮古市老連、同大船渡市老連、宮城県老連、仙台市老連、同宮城野区老連、同若林区老連)
	3日～4日	・福島県飯館村老連の取材(全老連:河野参事)
	5日～6日	・宮城県気仙沼市老連・仙台市若林区老連の取材(全老連:谷野参事)
	12日～13日	・都道府県・指定都市老連会長会議開催 *被災地報告(岩手県、宮城県、仙台市、福島県) *講演「被災地の高齢者は今」
	15日	★「東日本大震災 関連情報(第25報)」送信
20日～21日	・岩手県大槌町老連の取材(全老連:岡本参事)	

平成24年

1月	12日～13日	・地域支え合い活動推進セミナー開催 *被災地活動報告(福島県飯館村老連)
	18日	★「東日本大震災 関連情報(第26報)」送信
2月	1日	・月刊「全老連」2月号発行 *特集「東日本大震災 被災地の老人クラブはいま」に取材記事掲載
	8日	・「被災県別サポート班体制」幹事県会議開催、今後の救援拠金の対応について協議
	15日	★「東日本大震災 関連情報(第27報)」送信
3月	2日	★「東日本大震災 関連情報(第28報)」送信
	19日	★「東日本大震災 関連情報(第29報)」送信
5月	17日	★「東日本大震災 関連情報(第30報)」送信

6月	1日	・事例集「笑顔を取り戻そう～東日本大震災被災地の老人クラブ活動2012」作成配布
	7～8日	・老人クラブリーダー中央セミナー開催 *被災地活動報告(福島県富岡町老連)
7月	4日	★「東日本大震災 関連情報(第31報)」送信
	11～12日	・東北ブロック老人クラブリーダー研修会(岩手県)開催 *少人数のグループ協議にて、震災にあたり「今、老人クラブにできること」を意見交換、松の木に各自記入のカードを張り出した。
8月	21日	・「復興応援旗」へのメッセージを都道府県・指定都市老連に連絡
9月	4日	★「東日本大震災 関連情報(第32報)」送信
10月	4日	・全老連創立50周年記念大会において、岩手県、宮城県、仙台市、福島県各老連へ復興応援旗を伝達
	5日	・被災47市区町村老連へ贈る復興応援旗を、岩手県、宮城県、仙台市、福島県各老連へ送付
	13～16日	・全国健康福祉祭宮城・仙台大会「地域文化伝承館」開設(宮城県老連、仙台市老連、全老連共同主管、全老連:斎藤会長・齋藤事務局長出席) 全老連斎藤会長が、被災地・岩手県釜石市老連を訪問
11月	8～9日	・女性リーダーセミナー開催 *被災地報告(仙台市青葉区折立地区老連、福島県浪江町老連)
	5日	★「東日本大震災 関連情報(第33報)」送信

平成25年

1月	17日～18日	・在宅福祉を支える友愛活動セミナー開催 *被災地活動報告(宮城県七ヶ浜町老連)
	29日	・東日本大震災と老人クラブ活動に関する検討会開催 *岩手県山田町、宮城県気仙沼市、仙台市若林区、福島県大熊町から4名参加

東日本大震災における被災者の支援活動等に対して
全国老人クラブ連合会が
厚生労働大臣から感謝状をいただきました

この記録集で一端を紹介しました、全国の老人
クラブの支援活動等に対して、平成25年3月11日、
全国老人クラブ連合会が代表して感謝状をいただ
きましたのでご報告いたします。

今後も引き続き、復興に向けて、できることを
支援していきましょう。
